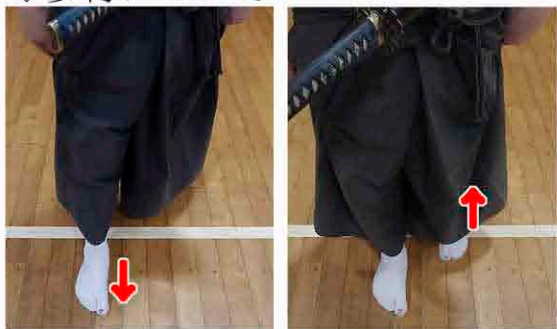


## ■田宮流の基本動作■

まだ寒さが残り稽古も素振りして身体を暖めながらの日々。春が待ち遠しい季節ですね。今回はオランダ田宮流同好会さんにお送りした、作法や礼法などの詳細を紙面にしたいと思います。神明会も現在は、入会されたばかりの方々が多く参考に成る事と思います。

### ●作法のポイント●

#### ◇歩行について

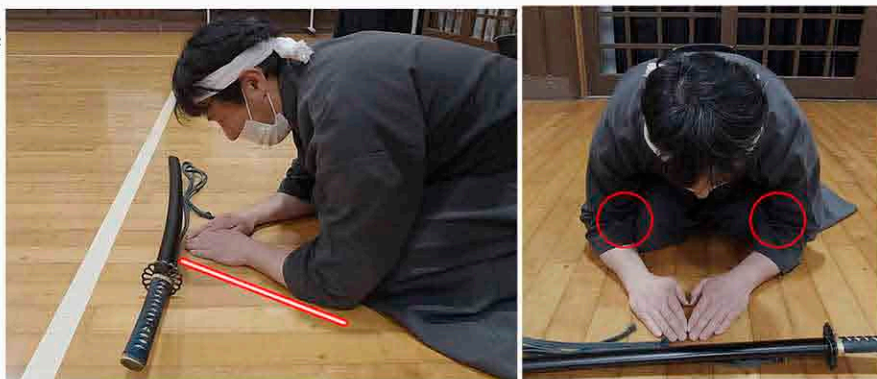


道場に入る時、演武の入場、演武中の移動などの場合は、右足から歩行を開始します。

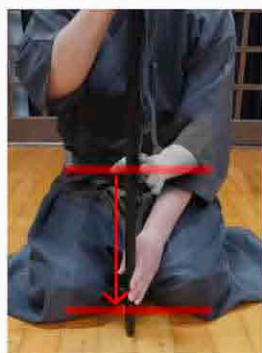
演武終了時の退場、道場の退場、技を終えた後には、左足から下がります。

#### ◇刀礼のポイント

刀礼の全体像は、日々の稽古で習得して頂ければ良いと思いますので、ポイントのみ解説します。写真の赤線/○印の刀礼時、両肘は両膝に接触させ、両肘は床につける様にします。鍔は左膝の前に来ます。



#### ◇帯刀のポイント



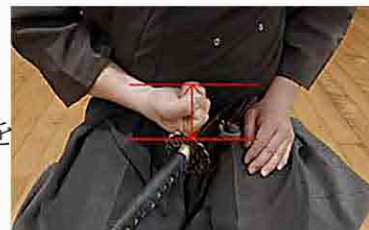
刀礼後、帯に刀を差す時に、両膝の間に刀を立てます。鞘の三分の一辺りに左手を伸ばし、鑑『コジリ』（鞘の底部分）付近を左手で掴み左手でヘソ前の帯を分けて帯刀します。

（全剣連居合では、脱刀時にこの動作が有り、鞘の中程から鑑迄となっています）



帯刀時には、鍔の位置はヘソ前にして、鍔と帯の間は、拳1つ分空けます。

（肘を脇腹に付けていれば、後ろから見られても肘の位置を変えずに鯉口をきり、右手を柄に掛けても分からない）



#### ◇振りかぶり斬り下ろしのポイント



刀の振りかぶりは、刀が頭上45度から水平以内の範囲で行います。肩を軸に楕円運動で、敵に当る位置135度付近で、両手が伸び、刀身が先に走る様にします。剣道の様に手首が先に刀身が後に振られると、打ちの形になってしまいます。また振りかぶり時に剣先が下がらない様にします。（私も中々出来ていませんが・・・）